

## 中学校を考える（1）

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

先日、開倫塾の先生方に、「クラスの何人くらいの生徒が塾にナイフを持ってくるのか」質問をした。どの先生も塾にナイフを持ち込む生徒は見たことがないとの答えだった。学校には、ナイフを持ち込む生徒がいる（いた）のに、なぜ学習塾にはナイフを持ち込む生徒が見られないのか。今回は、ナイフ持ち込みによる学校での事件を考える。

### 2. 調査書を考える

①なぜ、学習塾にはナイフを持ち込む生徒がいないか。学習塾は、入塾も退塾もかなり自由に行われるから、この点に関する精神的な抑圧・プレッシャーが学校と比べかなり少なく、ナイフを持ち込む必要がないからだと言える。

どこの学習塾で勉強するか、つまり学習塾の選択は全くの自由意思で行われる。どんなに保護者が塾に行きなさいと言っても、中学生ともなれば、もし本当に塾で勉強するのが嫌であれば、断固拒否する場合はほとんどだ。学習塾の方も、入塾面接で、もし生徒に塾で勉強する意思がなければ、どんなに保護者から頼まれても、「勉強したくなったら、また来て下さい」とお断わりする。塾で勉強する意思がないのに、無理やり入塾させることはしない。（もし、塾で勉強する意思がないことが明らかなのに、無理やり教室に連れていけばどうなるか。そこでは学習する意思がないのだから、いくら素晴らしい先生や優れた教材があっても全く頭に入らず、何回かする内に、必ず塾には来なくなる。そればかりか、他の生徒の学習意欲を大幅に減らす原因となるからだ。）

\*ただし、塾で勉強する意思はあるのだけれど、なかなか勉強に取り組むきっかけがつかめず、困っている生徒はお引き受けをすることもある。このように、塾で勉強する意思のない生徒は、塾には存在しないと言える。

②学習塾は、やめるのも自由だ。教え方が自分と合わない、先生が信頼するに足りない、クラスの雰囲気は自分と合わないと思えば、明日からでも行く必要はない。特に、成績が一向に上昇しない場合などは、生徒はどんどんやめていく。

学習塾の方も、その塾に全くなじめないと思われる生徒や、授業を妨害することがたび重なり、いくら指導しても改めることが困難な場合は、本人や保護者と相談の上、お休み願う場合もある。生徒からみて、入るのも自由であるし、出るのも自由。学習塾側から見て、生徒を入塾させるのも自由であるし、場合によっては退塾させるのも自由。その場に居続けることによるストレスは、余りたまらないのが、学習塾の特徴と言える。

先生が気に入らなければ、学習塾には来なければいいだけなので、学習塾では先生が生徒に

殴られたということは全国でも耳にしたことがない。また、学習塾の中でのイジメについても、もしイジメられて嫌なら、その学習塾には明日から行かなければよいため、イジメも余り耳にしない。先生の暴力があれば、生徒は明日から誰も来なくなるので、その教室は閉鎖となり、先生も職を失うことになる。

生徒の数を確保しようと生徒や保護者に媚びへつらえば、その卑しい根性は瞬時に生徒や親から見抜かれ、そんな人には教わりたくない、明日から誰も生徒は来なくなるのが真実。

だから、「ナイフ」を持ち込んで、その場にいたくないという意味でのストレスを解消しようなどと思う生徒は見られないのが学習塾であると言える。なぜ学校には「ナイフ」を持っていくのか。

③非常に片寄った見方かもしれないが、原因の一つは高校入試の調査書にあると推測できる。

栃木県立高校入試を例にとれば、入試は 1000 点満点で行われる。そのうち 500 点は、3 月に行われる英語・数学・国語・理科・社会の五科目各 100 点満点の合計点。残り 500 点のうち 360 点は、中学 1 年、2 年、3 年 1 学期と 2 学期の 9 科目を各十点満点にした合計点。(つまり、中 1 で 9 科目に 10 をかけて 90 点、中 2・中 3 の 1 学期、2 学期と各 90 点ずつで、合計 360 点となる。)問題は残りの 140 点だ。

④「ツッパリ」「いじめ」などの非行の記録など、受験生に不利な事柄を文章形式で具体的に記入する欄はないものの、「出欠の記録」には 3 年次の欠席日数と主な理由が記され、「行動の記録」には、基本的な生活習慣、明朗・快活、自主・自律、向上心、責任感、創意工夫、思いやり、寛容・強調性、自然愛護、勤労・奉仕、公正・公平、公共心の各項目ごと「その内容に照らして充分満足できる状態にあるとき」は○印を、「その他の場合」には／印を記入。「特別活動の記録」の欄には、学級委員長、副委員長、生徒会長、副会長、書記、会計、各種委員会の委員長、副委員長、クラブ長、部長等は、リーダーとして活躍している場合記入。「文化活動、スポーツ活動、社会活動、特技等の記録」は校内活動と校外活動に分けて記入。「学術的、芸術的、体育的活動」で県大会、県コンクールで入賞・入選以上の場合記入。「その他の教科学習以外の活動、特技等」欄には、教科学習以外の活動欄に記入できない特別活動、部活動、校内活動で優れた点や特技などを記入、スポーツテストは 2 級以上が記入の対象。「校外活動」欄には、学校教育以外で継続的に活動している場合、および個人参加の大会などで優れた成績など、少年教室、青少年地域活動(ふるさと活動、仲間づくり、ボランティア活動など)、自然体験活動、スポーツ教室、単位子供会、ボーイスカウト、ガールスカウト、スポーツ少年団、道場、スイミング、テニスなどのスポーツクラブ、美術・音楽、書道教室、英語検定(3 級以上)、珠算検定(3 級以上)等の範囲で記入。これらが点数化され 140 点となる。\*以上、「調査書の記入内容」は、全国学習塾協会栃木県公報委員会編集「合格への道」(平成 10 年用栃木県入試情報 6 ページ)を参考に林がまとめた。

⑤「調査書は、受験生の姿を総合的にとらえるために、中学校生活全般に渡って多角的に記録された書類です。一回きりの試験に失敗しても一生懸命「中学校生活を送ってきた生徒の場合には、調査書で救われることも多くあります」(前掲載書より引用)というのが、調査書本来の趣旨で、それはそれで素晴らしいものだと思う。

ただ、率直に言わせて頂くならば、④のような内容を、もし事細かに書かれるならば、生徒は知らず知らずの内に、先生の前では「いい子」を演じざるを得ないのではないか。あそこまで記入されるとなれば、ずいぶん不自由な生活を送らざるを得ない生徒も出るのではないか。中には窒息しそうになる生徒も出るのではないか。まして「ボランティア」活動まで記入されるとなれば、調査書に記入してもらいたいから「ボランティア活動」をする生徒も出ておかしくない。

⑥学級委員長や副委員長、生徒会や部活動幹部は調査書に記入され、得点化されているならば、民主主義の精神の育成に合致するか、疑問に思う。得点の対象とされない役割を担当した生徒とのバランスを欠き、あまりフェアであると言えない。

⑦中学校が荒れる原因の一つが調査書だとしたら、少し内容を改めるのも、生徒のためかもしれない。\*ただし、だからといって、高校入試をなくし、近くの高校に全部近くの中学生を進学させるとするのは、中学校をもっと荒れさせる原因となる。理由は簡単で、そうなれば保護者や生徒は本音で動き、高校卒業後上級学校(つまり大学・短大・専門学校)に進学を希望する50%の人の多くは、私立中学校を選択するようになり、公立中学が選ばれなくなるからである。どのようにその後、中学や高校が荒れ果てるかは、東京都美濃部亮吉知事がひいた、学校群制度以降の東京都の公立中学や都立高校の荒廃ぶりを、私立中学入試の激化を見れば明らかである。子どもを大学に入れたい親は、本音で動き、有名私立高校、最終的には私立中学や私立小学校に向かわせ、小さい子どもに大きな犠牲を強いるからだ。

### 3. おわりに-「授業の充実」がすべて

①だから学習塾の方が学校よりも優れている、などと言うつもりは全くない。学習塾はピアノやお習字、スイミングや珠算教室と同じで、たまたま英語や数学など、小学校、中学校、高校でわかりにくい科目を少ない人数、少ない時間で教えている民間教育機関であるにすぎない。

②ただ、非常に申し上げにくいことだが、学校の先生は、もっと熱心に自分の教科を教える努力をした方がよい。先生方は一時間の授業の準備を全身全霊を傾けやっているだろうか。レッスンプラン(教案)を何年もかけて書き上げ、毎回授業が終わるたびごとに深く反省し書き直しているだろうか。授業時間の一分一秒も無駄にせず、生徒に深い感銘を与えるような授業をしているだろうか。よくわからない生徒がいたら、放課後残して分かるまで教えているであろうか。

③服装も随分おかしい。体育を教える時間ならともかく、なぜジャージを着て教室に入るのか不思議だ。中学生や高校生に教科を教えるのにネクタイもしめず教えるのでは、初めから先生として尊敬を得るのを放棄しているのと同じだ。

④先生が生徒から最も尊敬されるのは、分かりやすく素晴らしい授業をし、生徒の学力を上昇させた時のみであることを肝に命じてほしい。生徒指導や部活動の指導は、あくまでも素晴らしい授業ができ、生徒から尊敬されてから行うべきだと思う。

\*では、一体誰に部活動の指導を任せるかといえ、地域のその道の専門家に頼めばよい。運動の不得意な先生に指導を受ける生徒ほど気の毒なことはない。体系的なコーチの勉強すらしたことがない人は、部活動から一切手を引くべきだ。ほとんど、その種目の練習として形をなさない時間を拘束するだけの部活動であるなら自由の束縛であり、生徒の心をねじまげることにもなる。

⑤学校はもっと地域に心を開くべきだ。その一つとして、地域の方に部活動の指導をお願いしてはどうか。学校が自らできないというのであれば、市町村長や、市町村議会の議員の方々が調整してあげたらどうか。部活の指導がなくなった分、先生方にはよくわからない生徒をわかるまで教えることをしてもらったり、明日の授業のために充分勉強する時間を与えたらどうか。

⑥学校の先生方が授業を全力でするようになれば、生徒は先生を尊敬するようになり、授業を通して学識や人格も高まり、ナイフなど持たなくなると確信する。皆様にも、この問題をお考え頂きたい。